

Pacific  
Consultants

Producing  
The Future™

機械・電気分野

# MEP/Engineering



パシフィックコンサルタンツ株式会社  
PACIFIC CONSULTANTS CO., LTD.

〒101-8462 東京都千代田区神田錦町三丁目22番地  
地域本社・支社：首都圏、北海道、東北、北陸、中部、大阪、中国、九州、沖縄  
海外拠点：シンガポール支店、ジャカルタ支店、マニラ駐在員事務所



## 未来をプロデュースする



パシフィックコンサルタンツ株式会社  
交通基盤事業本部 設備エンジニアリング部長

**江本 信司** えもと しんじ

1996年入社  
設備エンジニアリング部に29年勤務  
2020年より現職  
主に、首都高速道路のトンネル付帯設備(換気・非常用)を中心とした計画設計と火災シミュレーションによるリスク解析業務の管理技術者として業務に従事。

## 社会インフラを動かす頭脳

道路やトンネル、橋梁、河川やダム、空港や港湾施設など、私たちの日常生活を支えるあらゆる社会インフラは、構造と機能という2つの面をもっています。両者が備わらなければインフラとして成り立ちません。照明設備のないトンネルも信号や情報板のない道路も考えることはできないからです。人の体にたとえれば、全身を動かすためには神経や脳に当たるものが必要であり、それが機械・電気設備だということができます。

## 維持管理で注目を集める分野

戦後の日本が高度経済成長を背景に駆け足で整備してきた膨大なインフラは、多くが老朽化しています。しかし人口減少や地方の過疎化の進行などによって人手の面でも資金の面でも維持管理が難しくなっています。ICTを駆使したシステムの導入による維持管理の省力化や効率化、事後保全から予防保全への切り換えは日本のインフラを支える重要なポイントであり、機械・電気分野の重要性はますます大きくなっています。

## どの分野にも共通するスペシャリストとして

国が登録を認める建設コンサルタントの21部門の中には「機械部門」と「電気電子部門」があります。これらは「事業部門に共通の横断部門」とされ、河川や道路といった個別の部門のスペシャリストではなく、機械部門は機械設備の設計や施工管理、エネルギー効率の最適化などを、電気電子部門は、電力供給システムや情報通信インフラ、電子制御システムなどの設計や施工管理を行います。つまりインフラの全部門で必要とされる技術者です。

大学などで学んだ機械や電気電子の知識は、1つの会社ではその会社がつくる個別の製品等にしか活かさせませんが、建設コンサルタントであればあらゆる社会インフラの設計や維持管理にその力を発揮することができます。機電分野で働く建設コンサルタントは国土と人々の生活を支える大きなやりがいのある仕事です。

## CONTENTS

- 01 事業紹介
- 02 分野の仕事
- 03 ホットピックス
- 04 社員の日常
- 05 技術者インタビュー
- 06 人材育成
- 07 会社概要



## 復興道路 (三陸沿岸道路)

仙台と八戸を結ぶ総延長約359kmの高規格道路  
2021年12月に全線が開通

### エンジニアからの一言

東日本大震災からの復興を目的として新たに建設された三陸復興道路は、三陸沿岸を南北に延びる高規格道路です。トンネルや高架橋区間の多いことが特徴の一つですが、パシフィックコンサルタンツ交通施設室は北側工区で機械・電気設備の基本設計及び詳細設計を担いました。

エンジニア



グローバルカンパニー  
国際業務部 グローバル事業推進室長

**中田 圭裕** なかた けいすけ

1991年入社  
施設部(当時亀戸)入社後、  
大阪支社(当時)、施設部(現設備エンジニアリング部)に在籍後、2023年より現職。  
主として道路・トンネル施設の概略・予備・詳細設計業務に携わる。  
これまで国・自治体・公団・公益民間企業などの業務で、全国47都道府県すべてを訪れた。



## 環状七号線 地下広域 調節池

白子川、石神井川及び神田川流域の水害に対する安全性を向上させるため、環状七号線の道路下にトンネルを建設、総容量約143万 $m^3$ を貯留

### エンジニアからの一言

新たな調節池は、既存の地下調節池を繋ぐため、環状七号線の道路下に延長5.4km、内径12.5mのトンネルとして建設されました。総合機電室では地下に水を落とす取水ゲート、清掃用車両の搬入設備、貯留水を川へ排水するポンプ設備や換気設備などの設計を行いました。

エンジニア



大阪本社 大阪交通基盤事業部  
設備エンジニアリング室長

**福田 泰久** ふくだ やすひさ

1997年入社  
施設部(現設備エンジニアリング部)に在籍後、  
2024年より現職。  
上下水道・河川・ダム・港湾施設の設備に関する  
計画・設計・維持管理等に携わる。



### つくば エクスプレス・ つくば駅

つくばエクスプレスは東京都の秋葉原とつくば市を結び延長58.3キロメートルの都市高速鉄道。2005年開通。

#### エンジニアからの一言

つくば駅は地下に設けられています。地上と異なり、地下構造物は広さに限りがあり、設備の設置場所も限定されます。さまざまな制約の下で設備の設計は難しく、また高速運行が特徴の当線は列車進入時の風対策も重要な課題でシミュレーションを重ねました。

エンジニア



交通基盤事業本部  
設備エンジニアリング技術次長

**細川 照生** ほそかわ てるお

1996年入社  
施設部(現設備エンジニアリング部)に在籍後、  
環境エネルギー部、資源循環部、国際事業部へ出向、  
設備エンジニアリング部帰任を経て2024年より現職  
国内外の地下鉄、地下構造物付帯設備や国内外のエネルギー分野に関する調査・設計・施工監理等に携わる。



### 空港維持 管理能力強化 プロジェクト

開発途上国の国際空港で進めた  
電気供給設備の維持管理能力向上の取り組み

#### エンジニアからの一言

アフリカ・マラウイの国際空港では導入された電気設備の維持管理を自国で進められる体制の整備が求められていました。国際設備室では現地職員の研修プログラムを作成、教材も独自に準備して2年半にわたってフィールドと教室それぞれで授業を行いました。

エンジニア



交通基盤事業本部 大阪交通基盤事業部  
設備エンジニアリング室 技術課長補佐

**長谷川 美佳** はせがわ みか

2016年入社  
設備エンジニアリング部(うち2年間、社内出向により  
国際営業・企画に従事)を経て、2024年より現職。  
主に鉄道や空港、エネルギー・電力インフラの  
企画・計画・設計・維持管理等に電気技術者として携わる。

## 交通施設分野

### ■ 仕事内容

道路やトンネル、橋梁、鉄道などのインフラの機能を支えるさまざまな機械、電気設備の計画、設計を行っています。

### ■ 特徴と仕事の魅力

現在のあらゆる社会インフラは情報システムと切り離して設計したり運用したりすることはできません。コンクリート構造物に100年の寿命があっても設備の寿命は短く、また技術も日進月歩で進化し、設備の設計や更新はインフラの性能を維持・向上させる重要なポイントです。また維持点検の省力化や再エネ活用、カーボンニュートラルの実現も大きな課題となっています。



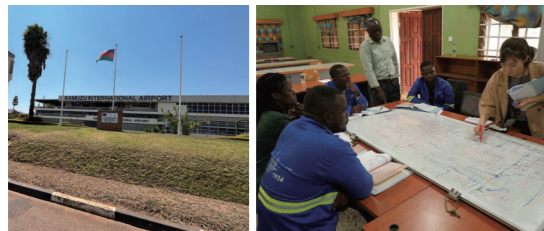
## 国際分野

### ■ 仕事内容

開発途上国のエネルギー政策に関する調査や提案、運用中の機械・電気設備に関する維持管理能能力高度化の支援を行っています。

### ■ 特徴と仕事の魅力

開発途上国では2050年あるいはそれ以降のカーボンニュートラル実現に向けて、化石燃料依存からの転換や省エネ対策の強化が求められています。従来の支援は発電所建設や送電網の整備が中心でしたがフェーズは変わりました。国のエネルギー施策の転換をいかに実現するのか、省エネをどう進めるのか、エネルギーや設備を切り口にした支援が求められています。



## 河川、水工分野

### ■ 仕事内容

ダムや水門、河川、港湾施設、洪水を抑制する地下貯水池など水工分野の設備の計画や設計を行っています。

### ■ 特徴と仕事の魅力

洪水や内水氾濫など水災の激甚化が大きな脅威となるなか、河川整備・管理の高度化・効率化は大きなテーマです。例えば国はSRS(Smart River Spot)と呼ばれる安定した高速通信が可能な通信環境が整備された河川空間の創出を目指しており、映像伝送・遠隔操作の安定性向上や災害時のレジリエンス向上を実現する情報関連設備の計画・設計の重要性は高まる一方です。



## 設備マネジメント分野

### ■ 仕事内容

設備の計画・設計の次工程となる発注者による施工管理業務を、現場を最もよく知る技術者としてマネジメントし、発注者の業務を支援します。

### ■ 特徴と仕事の魅力

インフラに関連する設備の設計が終われば設計図書は発注者に納められ、その後の施工会社の選定や施工管理は発注者の業務です。しかし、施工現場ではさまざまな設備のダクトや配線・配管が複雑に入り組み、設計変更が必要になることもあります。各設備の特徴や求められる性能などを最もよく知る設備設計者として発注者の立場に立って現場をマネジメントします。



## 大きく拡大する機電分野の海外事業

機電分野の業務は社会インフラに付帯する設備の計画・設計と考えられています。確かに社会インフラは構造に機能が備わって初めて価値を持つものであり、機械・電気設備を抜きに考えることはできません。特に現在はIT化やAIを活用した高度な情報システムがインフラの運用を支えています。機械・電気設備は単に「付帯するもの」ではなく、構造物の価値を最大化するために不可欠なものであり、特にエネルギー政策や環境を考える場合には、最重要項目になります。現在の世界的な課題である2050年のカーボンニュートラルの実現も、機械・電気設備をどうするかということが重要であり、有効な解決策となります。特に開発途上国ではその重要性がより顕著であり、パシフィックコンサルタンツの機電分野の一組織である国際設備室では、JICAの技術協力プロジェクトなどを通じて、各国での調査、政策提案、技術支援を積極的に推進しています。

### エネルギー・トランジション促進に係る情報収集・確認調査

モンゴルは純国産のエネルギー資源である再生可能エネルギー比率を2030年までに3割とする目標を掲げていますが達成が危ぶまれています。本プロジェクトは、モンゴルが石炭を豊富に産出するという特有のエネルギー事情に加え、同国の経済・社会状況や国民生活の実態を踏まえたうえで、エネルギー・トランジションをどのように進めるべきかを検討するものです。必要な情報の収集・分析を行い、2050年のカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ案を策定しています。



### モンゴル

### ゼロ・エネルギー・ビル、ヒートポンプ導入による省エネ促進プロジェクト

タイ政府は2070年までの脱炭素社会を目指し、再生可能エネルギーの導入やエネルギーの効率利用に力を入れています。特に、エネルギー消費の割合が大きい産業・民生部門においては、規制の整備や高効率機器の導入が重要とされています。こうした背景のもと、日本の技術であるヒートポンプやゼロエネルギービル(ZEB)に関する技術協力が、JICAの支援のもとで進められています。同様のZEBに関する技術協力は、マレーシア、カザフスタン、ヨルダンなど他国においても展開されています。



### タイなど

### 製鉄業に対する省エネ技術の移転

トルコは、国内で製造した鉄の多くをEUに輸出しています。しかし、EUでは2026年以降、製造時のCO<sub>2</sub>排出量が多い鉄鋼製品に対する課税を強化する方針を示しており、トルコの鉄鋼業界は早急に低炭素化・脱炭素化への対応を迫られています。こうした背景を受け、トルコでは日本との技術協力を通じて、エネルギー分野における省エネ対策や再生可能エネルギーの導入に取り組んでいます。日本はこの分野において、豊富な知見と技術の蓄積があり、世界的にも大きな貢献が期待される存在です。特に、エネルギー・トランジションに関する専門的なコンサルタントが世界的にまだ少ない中で、パシフィックコンサルタンツはこの分野でのリーダーシップを発揮し、世界のトップコンサルタントを目指してさらなる取り組みを進めていきたいと考えています。



### トルコ

## 2021年入社



わたなべ まさや  
**渡邊 将矢**

勤務場所 東京本社

分野 電気通信

- 交通基盤事業本部 設備エンジニアリング部
- 神奈川県立神奈川工科大学 電気電子情報工学科卒業

### 趣味

### キャンプ

休日はキャンプに出掛けています。澄んだ空気の中で過ごす時間は、心身ともにリフレッシュできます。時には会社のチームメンバーと一緒に楽しむこともあります。

### 1日のスケジュール

- 7:00 起床・出社準備**  
8時に家を出て5歳の娘を保育園に送る。これは毎朝の私の役割。
- 9:30 出社**  
私が管理している複数の仕事の進捗を確認。それぞれについて必要な指示を出します。自分が担当している業務に関する提案資料作成。発注者からトンネル内の照明設備更新の話があり、来週中にいくつかの案を提案することにしています。ランプだけ替えるもっとも規模の小さいものから、ケースを含めて高性能のものに交換して設置数そのものを減らす大規模改修案まで、ライフサイクルコストも含めたシミュレーションと合わせて経済的で効率的な導入案を提出します。
- 10:30 出張準備**  
今日は午後から一泊で北海道へ出張です。新設の高規格道路への照明や情報板の設置計画を立てるにあたり、現地の状況を確認します。海沿いの道路なので塩害や風の影響をどこまで配慮するか、自分の目で確かめる必要があるからです。現地でのチェック項目を再確認。今晚はどこで食事をするか、それもチェック！機電分野は全国に出張しながら仕事をするので、宿泊する日の夜は現地のおいしいものを食べて英気を養います。
- 11:30 ランチ**  
一緒に出張する同僚と会社を出て空港へ。ランチは打ち合わせを兼ねて空港で取ります。
- 15:00 打ち合わせ**  
現地の道路事務所着。リモートでは画面越しに何度かお会いしている発注者と初めて対面で挨拶。意外に背の高い方で、こういうことはweb会議では分かりません。対面ならではの感覚への刺激とか親近感やはり大事だなと思います。翌日朝からの調査スケジュールを確認。また、今後の基本計画や予備設計提出のスケジュール、先方の要望事項のおさらいをして1時間半ほどで打ち合わせは終了。
- 17:30 メール対応**  
早めにホテルにチェックイン。パソコンを開くと、今、アフリカのある国で進めている空港の電気設備更新のプロジェクトに関して、ローカルのエンジニアから問合せのメールが来ていました。向こうは日本より8時間遅れているので今は朝の9時半です。航空灯火用の受電設備の更新ついて、「ここにこういう設備を入れたいが電気はどこから送ってくれる？」と図面を添付しての問い合わせです。図面を検討、「ここから取るう」と書き込んでPDFで返送しました。
- 18:30 退勤**  
今日の仕事はこれでおわり。出発前にチェックした店に同僚と向かいます。今日もよく働いた！お腹がすきました！！

## 2022年入社



ゆたさか みはる  
**湯田坂 美晴**

勤務場所 東京本社

分野 電気通信

- 交通基盤事業本部 設備エンジニアリング部
- 日本大学大学院 生産工学部 建築工学専攻修了

### 趣味

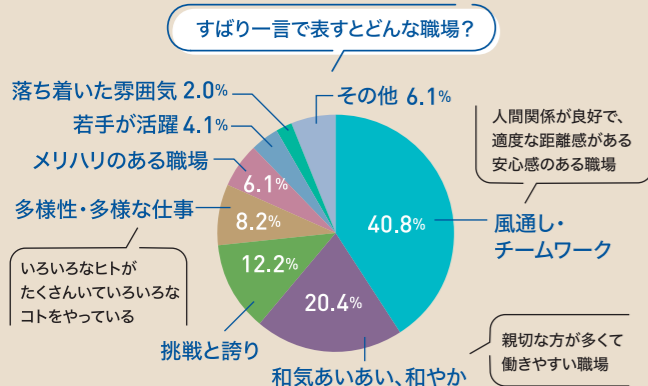
### サイクリング

休日は自転車で都内サイクリングをすることが多いです。自転車は景色や匂いを感じながら移動できるので季節による花の匂いの変化を楽しめるのが推しポイントです。自転車のカスタムも少しずつしており、これからもっと色々な場所へ出かけたいです。

### 1日のスケジュール

- 8:00 起床・出社準備**  
朝が弱いので、10時出社-18時退社という勤務スケジュールにしています。家を出るのは9時過ぎです。
- 10:00 出社**  
メールをチェックしつつ、前日にやり残した仕事を終わらせます。その後は今日の業務を確認。10本くらいプロジェクトに関係しているので、優先順位を付けて取りかかります。1本のプロジェクトに深く入って、それを集中的に進めている先輩もいますが、私はまだ4年目で技術面で覚えなければならないことも多く、いろいろなプロジェクトに入って知見を増やしています。
- 10:30 図面指示**  
今日の業務を整理したうえで、交通施設室のCADオペレーターさんに依頼できるものがあれば依頼します。この日は、前日の現地調査で私が図面にメモ書きしたものを示して、図面の修正を頼みました。今、私が加わっているプロジェクトの一つに路車間通信設備の更新があります。道路側の通信設備どこに取り付けるか、現地を見たらうえで計画を示すことになりませんが、その準備です。
- 12:00 ランチ**  
設備部と建築部は隣同士でフリーアドレスで仕事をしています。今日はたまたま隣の席に建築部に配属になった同期入社の子がいたので声をかけて外でランチ。
- 13:00 進捗確認**  
午後は打ち合わせが入ることが多くなります。内容はほぼ進捗確認。遅れが出ているものや急ぐ必要があるものなど、チームリーダーと相談します。
- 15:00 打ち合わせ**  
担当プロジェクトについて、リーダーと個別の打ち合わせ。ある高速道路会社が管理する一定の区間の全線で設備を更新する大きなプロジェクトです。2週間後の先方との打ち合わせに向けて、私の担当範囲で困っていることはないか、課題はどこにあるのか、詳細な検討をしました。
- 15:30 報告書作成**  
リーダーから指示された設備メーカーの担当者に連絡。仕様に関するヒアリングをしてチーム内への報告書を作成しました。
- 17:00 ミーティング**  
私は今、BIMの活用に関する全社的な検討会に設備部の一人として参加しています。もともと学生時代にBIMを使った設計業務の経験があり、今後の可能性の大きさを実感していました。具体的に何からどうチャレンジしてくか、検討資料を作成し設備部のもう一人と先端技術センターの3次元設計に明るい技術者を交えてミーティング。私がいよいよ身について、部内の業務推進に貢献していきたいと思っています。
- 18:00 退勤**  
定時で退社。今日は週に1度の会社のバスケット部の練習日。体を動かしてリフレッシュします！

### 若手社員アンケート



### 若手が目指す10年後の技術者像

新規事業や他部門連携業務に参画する

表彰の実績をつくる

海外プロジェクトへの参画

「一緒に仕事をしたい人」になる

業界全体に影響を与える技術者

プロジェクトマネージャーとしての確立と対外的な信頼構築

面白そうな仕事をとってくる

自分の専門分野にあたる業務で管理技術者を務める

### 若手社員キャリアインタビュー



2023年入社  
**河合 千里** かわい ちさと

勤務場所/東京本社  
分野/電気通信

- 交通基盤事業本部 設備エンジニアリング部
- 名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会工学専攻修了

インターンでお世話になった際、部内の風通しがよく雰囲気よかったため、機械・電気分野に決めました。入社後もその印象にギャップはなく、同じ業務のメンバー以外でも、困ったことがあれば親身に相談に乗ってくださる環境です。大学では土木系の学部で、防災や都市計画についての研究室に所属していました。機械・電気分野と元々の専門は、直接的な関わりは薄いですが、業務の背景として防災が関わっていることが多いため、防災に関する視点を業務に活かすことができている。日常生活で見かける設備の設計に関わることも多いため、普段の生活の視点も変わることが面白いと思います。今は一担当者として、さまざまな業務を担当していますが、将来は管理技術者として活躍できるようになりたいです。そのためにも、多くの知識を吸収し経験を積むこと、技術士の資格取得が必要だと思っています。また、新技術を用いた業務に携わりとても面白味を感じたため、いずれは自分でそういった面白い案件を獲得できるようになりたいと思っています。

## パシフィックコンサルタンツの良さは何ですか

**平塚** 私は中途入社でパシフィックコンサルタンツに来たのでよく分かりますが、当社は一業務に特化した専門家集団ではなくてインフラに関するあらゆる事業分野の専門技術者がそろっています。分からないことがあってもすぐに聞けるし、学ぶ機会が身近にたくさんあるので、非常に刺激的です。自分をもっと成長させたいという意欲のある人にはとてもいい環境があると思います。

**小幡** 私は大学では建築系の勉強をしていました。設備関係の仕事をしたかと思っていただけではないんです。でもインターンシップでこの会社に来て、2週間、とてもいい雰囲気の中で過ごしました。人がやさしいし明るいんですね。具体的にどういう仕事をするかは入って見なければ分からないことですが、何をしてもこの雰囲気の良さは魅力だと思いました。

## 仕事を通して達成感を 感じられたことは何ですか

**平塚** 自分が携わった道路やトンネルを、たまたまですがプライベートで走ったりすることがあります。先日東京の多摩地区にある道路トンネルで、自分が電気設備の調査検討から設計、施工管理まで携わったものがあるのですが、そこを走りました。自分のやったものが形になって目の前に現れると、やはり感動しますし、大きな達成感があります。

**阪井** 私は今、首都高速の日本橋の地下化という大きなプロジェクトに関わっています。照明をはじめ電気設備全体を担当していますが、新設の道路ではなく、都心の地下ですからさまざまな設備や施設がすでに埋められています。これをどう避けるか、また、一部を新たに地下化して既設の区間につなぐので、その点でも難易度は高いです。完成するのはまだだいぶ先ですが、開通したら大きな達成感があるだろうなと思っています。

**小幡** 日本橋の景観を昔に戻すというのは、社会的にも非常に注目度が高いですから、やりがいがありますよね。

## 機電部門の魅力はどこにありますか

**平塚** これをやりたいと手を挙げれば、やらせてくれる部門です。私も多くのチャンスを得ましたし、後輩にもそういう環境を提供したいと思っています。

**小幡** 実は私は技術を極めるというより工程管理をしながらプロジェクト全体をマネジメントするほうが好きで、そちらに適性があると思っています。これから少しずつマネジメントの方向に進みたいと思っていますが、専門技術かマネジメントか、当社は自分のキャリアアップの方向性が選べるところがいいですね。

**阪井** キャリアアップとは直接関係しないのですが、パシフィックコンサルタンツの支社に設備部はないので、プロジェクトがあれば東京もしくは大阪のそれぞれの本社から全国に出張することになります。いろいろなところに行けるのは当社機電部で働くことの魅力の一つです。

## 発注者との信頼関係の築き方を 教えてください

**平塚** 当たり前ですが嘘を言ったり隠し事をしないこと。頼まれたことは忘れずにやることですね。

**小幡** 業務の仕様書に明確に書いてなくても、発注者から頼まれたら、書いてありませんでなくて、やれることはやることだと思います。

**阪井** 発注者でも若い人が現場に来ることがあります。経験が浅く何をしていたか分からないという場合もあります。相手の立場で考えることだと思います。

## ワークライフバランスで 取り組んでいることはありますか

**平塚** 家庭との両立はとても大事なことだと思います。今の時代に合わせた働き方をしたいですね。私の上の世代は、「24時間働けますか？」が合い言葉だった昭和の人たちです。しかし今は、これからの時代に合った働き方をしなければいけない。私はそのモデルの一人になれたらいいと思っています。自分のための時間をしっかり取って、インプットすることが大事だと思いますし、家庭に対する男性の関与も重要になっていると思います。

**小幡** 私はその日やるべきことを朝決めて、それをきちんとやって定時に退社することにしていて、基本的に残業はしないと決めています。趣味のレベルですが卓球の練習を続けていて、それから今は祖母にお茶を教えてもらっているのですが、こういうことにも時間を使いたいと思っています。

## オフはどう過ごしていますか

**阪井** 私はまだ独り身ですし、ゲームが好きなので、ゲームのイベントなどに出かけることが多いです。

**平塚** 普段は本を読む時間をしっかり取るようにしています。少しまとまった時間が取れるときは、出張で全国いろいろなところに行っているのでも、そこで気に入った土地にプライベートで訪ねたりしています。こんな魅力的な土地があるんだと改めて感じます。せっかく出会うことができた土地なので、自分の中でも大切にしたいと思っています。

**小幡** 私も出張がきっかけで九州の全県を知ることができました。確かにまた行ってみたいと思うところが多いですね。

## 就職活動をする人へ メッセージをお願いします

**平塚** 機械・電気の知識を持った人はメーカーの研究所などに行くことが多いと思いますが、そうするとごく限られた製品をつくるだけだけになります。その点当社は知識や技術を活かせるフィールドが広く、まったく別の課題に向き合うこともあります。非常に幅の広い経験ができる会社であり、特に人と話しながら一緒に新しいものをつくりあげるのが好きという人に向いていると思いますね。

**小幡** 理系の学科で専門性の高い勉強をしていた人は、それに近い仕事を選びがちだと思うんです。でも、そうした決まった分野の仕事より、実際にその会社がやっている仕事の方が自分に向いているかを見ることが大事だと思います。技術はある意味では後からでも学べます。世の中にはたくさんの仕事があるので、まずそれを知ってほしいですね。



2020年入社  
**阪井 晴一郎**  
交通基盤事業本部  
設備エンジニアリング部  
設備MC室



2020年入社  
**小幡 詩歩**  
交通基盤事業本部  
設備エンジニアリング部



2006年中途入社  
**平塚 翔**  
交通基盤事業本部  
設備エンジニアリング部  
設備MC室 技術課長補佐

大学では物理工学、大学院では生物物理を専攻。研究室の先輩の紹介で建設コンサルタントという仕事を知った。入社後は主に高速道路の電気設備の計画や設計を担当している。

阪井とは同期入社。大学時代は建築系で研究室でもまちづくりやランドスケープデザインを学んでいたがインターンで当社を知り、雰囲気に惹かれて入社。入社後はダムや河川系の電気設備を担当。

中途入社で前職は電気設備を扱っているサブコン。ゼネコンの下請けではキャリアアップできないと考えて3年で転職。現場経験を活かして、道路トンネルの電気設備の調査検討から設計までを担う。

	新入社員	3年目	10年目	管理職	職位者
階層別研修	新入社員研修	3年目研修	上級職研修	管理職研修	職位者研修
技術力・専門性	分野別新入社員研修			マイスター制度	
		OJT 技術士等受験指導			
		分野別研修(技術研修・現場見学・出向・技術勉強会など)			
コミュニケーション 部下・後輩育成			1on1 コーチ研修		
国際性	若手海外プロジェクト研修(大型プロジェクトへの参画)	英語力強化研修(学習支援・プレゼン力向上)			
		グローバル事業勉強会			
			海外研修(フィリピン・マニラ)		
公募型・選抜型		次世代リーダー育成(ビジネススクール)	経営人材育成		
自己研鑽サポート			TOEIC受験補助		
			実務・資格取得講座受講補助		
			外国語講座受講補助		
			資格取得祝い金・更新補助		
			社会人博士課程入学支援制度 社外留学休職制度		

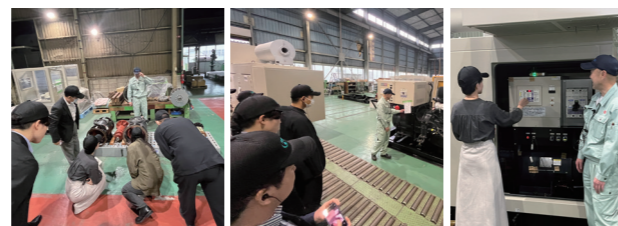
## 分野別研修の実施

機電分野は、交通・水工・国際・DX・GC・PMCMと多種多様な事業領域に横断して業務を遂行しています。このため、全国の機電技術者が集まり、設計技術力の向上にむけて勉強会を実施しています。熟練技術者による講演や指導の他、国内外の最新技術動向の情報共有、若手のチャレンジ案件など相互に議論を重ね、それぞれの専門性を掛け合わせた“応用力のある機電技術者”を目指しています。



## 現場見学会・工場見学会

インフラに機電システムを実装するためには、インフラの現場を知ること、機械・電気設備の中身を知ることの両者が不可欠です。照明や配電盤・制御盤のほか、ポンプや計装装置など様々な機械電気設備・システムの工場を見学しています。また、自身の携わったインフラの完成時には、現地にて自身の設計成果が実装されたシステムを見学し、そこで得た気づきを次の提案に反映させています。



社名 **パシフィックコンサルタンツ株式会社**  
PACIFIC CONSULTANTS CO., LTD.

本社住所 東京都千代田区神田錦町三丁目22番地

URL [www.pacific.co.jp](http://www.pacific.co.jp)

創立 1951年9月4日  
米国法人Pacific Consultants Inc.創業

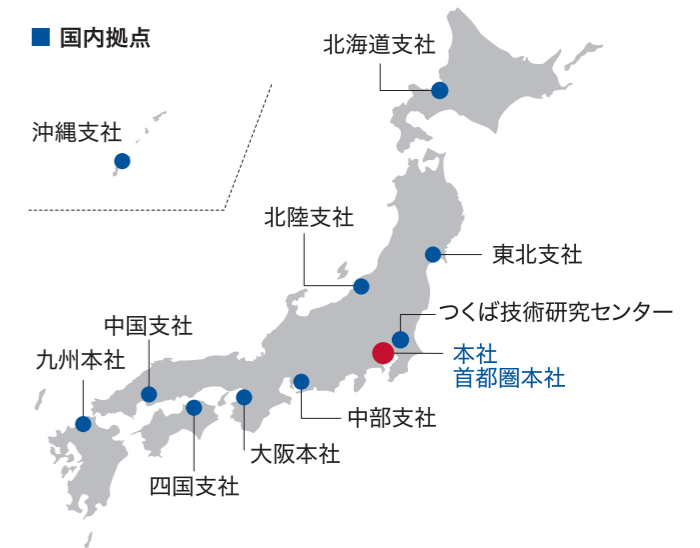
設立 1954年2月4日  
パシフィックコンサルタンツ株式会社として設立

資本金 8億2,000万円

主な事業 社会インフラサービスのプロジェクト企画・立案、調査、計画、設計、運営・管理

主な分野 国土保全(河川、港湾、上下水、防災等)、交通基盤(道路、構造、トンネル、鉄道、空港、アセットマネジメント等)、都市・地域開発、環境・エネルギー、建築、機械・電気、情報システム、国際事業、PFI・PPP、DX対応、インフラビジネスなど

主な取引先 官公庁、地方自治体、独立行政法人、公益法人、民間企業等



## ●パシフィックコンサルタンツ海外拠点 / ●パシフィックコンサルタンツグループ海外拠点

